



予防接種



- ＜接種場所＞ あつまクリニック(要予約)
- ＜日 時＞ ◆未就学児(予防接種専用時間)・・・毎週水曜日14:00～15:00
◆小学生～19歳・・・毎週月・金曜日9:00～12:00/14:00～17:00、毎週水曜日9:00～12:00/15:00～17:00
- ＜持 ち 物＞ ①母子手帳、②QRコードシール、③予診票(必ず事前に記入してください)

定期予防接種 *** 下記の期間で無料で接種することができます**

種類	対象者(接種できる年齢)	接種開始年齢	接種回数と間隔 (※接種開始年齢によって回数が異なります)		備考
※1 【不】 Hib(ヒブ)	生後2カ月 ～60カ月(5歳)未満	★標準的な接種 生後2カ月～7カ月未満	初回	3回(27日以上あけて)	※初回2・3回目は1歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後7カ月以上あけて)	
		生後7カ月～1歳未満	初回	2回(27日以上あけて)	※初回2回目は1歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後7カ月以上あけて)	
【不】 小児用 肺炎球菌	生後2カ月 ～60カ月(5歳)未満	★標準的な接種 生後2カ月～7カ月未満	初回	3回(27日以上あけて)	※初回2・3回目は2歳まで(追加接種は可) ※初回2回目が1歳を超えた場合は3回目の接種は行わない(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後60日以上あけて、1歳以降に)	
		生後7カ月～1歳未満	初回	2回(27日以上あけて)	※初回2回目は2歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後60日以上あけて、1歳以降に)	
		1歳～2歳未満	2回(60日以上あけて)		
		2歳～5歳未満	1回		

種類	対象者(接種できる年齢)	標準的な接種年齢	接種回数と間隔		備考
【経口生】 ロタウイルス (ロタリックス)	生後6週 ～24週未満	1回目は必ず、生後2カ月 ～生後14週6日までに接種 してください！	2回(27日以上あけて)		※R2.10.1～定期接種化
【不】 B型肝炎	生後2カ月 ～1歳未満	生後2カ月～9カ月未満	初回	2回(27日以上あけて)	
			追加	1回(1回目の接種から139日以上あけて)	
※1【不】 四種混合 ジフテリア・破傷風 百日ぜき・ポリオ	生後2カ月 ～90カ月(7歳6カ月)未満	生後2カ月～1歳未満	1期初回	3回(20～56日あけて)	※R5.4.1～2か月に対象者拡大
		1期初回(3回目)終了後 12～18カ月後	1期追加	1回(1期初回(3回目)終了後12～18カ月あけて)	
【不】 五種混合 ジフテリア・破傷風 百日ぜき・ポリオ・Hib	生後2カ月 ～90カ月(7歳6カ月)未満	生後2カ月～7カ月未満	1期初回	3回(20～56日あけて)	※R6.4.1～ 四種混合とHibワクチンが一体と なった五種混合ワクチンが定期接種 化
		1期初回(3回目)終了後 6～18カ月後	1期追加	1回(1期初回(3回目)終了後6～18カ月あけて)	
【注射生】 BCG	1歳未満	生後5カ月～8カ月未満	1回		
【注射生】 麻疹・風疹 (MR)	1期 1歳～2歳未満	1歳になったらできるだけ早め に	1期	1回	
	2期 5歳以上7歳未満で 翌年度小学校に就学する児	小学校就学前の1年間 (年長)	2期	1回	
【注射生】 水痘 (みずぼうそう)	1歳～3歳未満 ※既に罹患した場合は対象外	1回目:1歳～1歳3カ月まで 2回目:1回目から6～12カ月 後	2回(6～12カ月(最低3カ月以上)あけて)		
【不】 日本脳炎	1期 生後6カ月 ～90カ月(7歳6カ月)未満	3歳～4歳未満	1期初回	2回(6～28日あけて)	
		4歳～5歳未満	1期追加	1回(1期初回終了後、約1年(最低6カ月)あけて)	
	2期 9歳～13歳未満	9歳～10歳未満	2期	1回	
【不】 二種混合 ジフテリア・破傷風	11歳～13歳未満	11歳～12歳未満 (小学6年生)	1回		本ワクチンは、四種混合または五種混合の第二期となります。
【不】 ヒトパピローマ ウイルス感染症 (9価シルガード)	小学6年生 ～高校1年生の女子	中学1年生	2回(6カ月(最低5カ月)以上あけて) ※1回目接種が15歳を超えた場合は3回接種(2カ月以上 あけて2回接種、その後1回目から6カ月以上あけて 1回接種)		※R5.4.1～9価シルガード定期接種化 ※過去に接種歴のある方は原則同一 ワクチンを使用します

※1: 令和6年4月1日以降に接種を開始するお子さんは、五種混合ワクチンとなります。
(令和6年3月31日までに四種混合ワクチン及びヒブワクチンの接種を既に開始している方は、同様のワクチンで接種を終えてください)

任意予防接種 *** 町助成対象(無料): 1歳～3歳未満で1回目の接種のみ**

種類	対象者(接種できる年齢)	標準的な接種年齢	接種回数と間隔	備考
【注射生】 おたふくかぜ	1歳以上 ※既に罹患した場合は対象外	1歳以上 ※2回接種する場合の2回目は、小 学校就学前の1年間	1回 ※日本小児学会では2回接種が推奨されています	※2回目接種の場合、1回目であっても 年齢が町助成対象外の場合は、全額 自己負担となります。

* 本来、全額自己負担の予防接種ですが、厚真町独自助成により無料で接種することができます

ワクチンの接種間隔について *** 以下の2点を必ず確認しましょう**

- ①次に別の種類のワクチンを打つ時・・・注射生ワクチンどうしは27日以上あける。それ以外は原則接種間隔をあげなくてよい(R2.10.1～適用)。
* 【不】不活化ワクチン 【注射生】注射で接種する生ワクチン(※次に注射生ワクチンを接種する場合は間隔に注意)
【経口生】飲むタイプの生ワクチン
- ②次に同じ種類のワクチンを打つ時・・・上記の表のとおり間隔をあける

ワクチンで予防できる子どもの病気



1. ヒブ(インフルエンザ菌 b 型)感染症【ヒブワクチン※で予防】

インフルエンザ菌 b 型という細菌(※インフルエンザウイルスとはまったく別のもの)による病気です。細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎などを起こします。5 歳までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しいため重症化しやすく、重い後遺症を残したり、死亡する例もあります。

2. 肺炎球菌感染症【小児用肺炎球菌ワクチンで予防】

肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに、細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎などを引き起こします。髄膜炎は、ヒブによる髄膜炎より発症頻度は少ないですが、重症化します。

3. B型肝炎【B型肝炎ワクチンで予防】

主に血液を介して感染し、黄疸や全身のだるさ、食欲不振、吐き気、嘔吐などの症状が出る病気です。多くの場合 3 ヶ月以内に治りますが、乳幼児期に感染すると、ウイルスが排除されずキャリア(体内にウイルスを持っている)状態になる可能性が高く、慢性肝炎などを発症することがあります。

4. ロタウィルス感染症【ロタウィルスワクチン(経口)で予防】

ロタウィルスによって、下痢や嘔吐の胃腸炎症状が出る病気です。感染力が強く、胃腸炎の中でももっとも重症になりやすく、脱水症やくり返すけいれん、脳炎、重い腎障害などの合併症をおこすことがあります。

5. ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ【四種混合※・二種混合ワクチンで予防】

【ジフテリア】

ジフテリア菌の感染で起こり、38 度以上の高熱、のどの痛み、犬の遠吠えのような咳が特徴的で重症になると、呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし、死亡することもあります。

【百日せき】

百日せき菌の感染で起こり、長く続くせき、笛を吹くような音をともなう呼吸困難、チアノーゼなどの症状がみられます。肺炎や脳炎を合併することもあり、乳児では命を落とすこともあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開きにくくなるのが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなることもあります。

【ポリオ】

小児マヒとも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、まれに、熱が下がった後に片側の手足に弛緩性マヒを生じ、後遺症を残すことがあります。

6. 結核【BCGワクチンで予防】

結核菌の感染で起こり、日本では毎年約 12,000 人の方が結核にかかり、約 2,000 人が亡くなっています。高齢の方が多いですが、産まれてすぐであってからもかかる可能性があり、抵抗力の弱い乳児がかかると、結核性髄膜炎や粟粒結核など重い結核になることがあります。

7. 麻疹(はしか)・風しん(三日ばしか)【麻疹風しん混合ワクチンで予防】

【麻疹(はしか)】

麻疹ウイルスによって感染し、熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、特有の赤い発疹が顔から全身へ広がる病気です。子どもがかかると肺炎や脳炎を合併したり、死亡したりする例もあります。

【風しん(三日ばしか)】

風しんウイルスによって感染し、熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの 3 症状がみられます。発疹も熱も通常 3 日間で治りますが、重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。

8. 水痘(水ぼうそう)【水痘ワクチンで予防】

水痘・带状疱疹ウイルスによって感染し、強いかゆみのある発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

9. 日本脳炎【日本脳炎ワクチンで予防】

感染したブタから蚊を介して感染し、急性脳炎を引き起こします。突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどが起こり、一度かかると治療法がなく、死亡や重い後遺症を残す危険性があります。

※R6 年度より、五種混合ワクチン(四種混合とヒブワクチンが一体となったワクチン)での接種が開始されています。